

公開シンポジウム「家族の視点から見た少子高齢社会—時間と空間の広がりの中で」

- 1 主催 日本学術会議社会学委員会少子高齢社会分科会
- 2 共催 家族問題研究会
- 3 日時 平成19年7月7日(土) 13:30—17:00
- 4 会場 慶応大学三田キャンパス 東館6階 G-SEC Lab
- 5 次第

開会挨拶

13:30～

家族問題研究会会長 清水浩昭

日本学術会議社会学委員会少子高齢社会分科会委員長 武川正吾

慶應義塾大学COECCC代表 小林良英 または渡辺秀樹

シンポジウム 司会：山田昌弘・宮本みち子

13:45～ 落合恵美子（学術会議会員・家族問題研究会会員、京都大学）

「少子高齢社会の家族・福祉・国際移動——アジア家族からの視点」

歴史的視点も含め現在日本で進行中の少子高齢化を家族社会学の視点から位置づける。

14:15～ 船橋恵子（家族問題研究会会員、静岡大学）

「子育ての比較社会学からのアプローチ」

「子育て」の視点、及び、フランスやスウェーデンと比較から、社会変動の中での日本の少子高齢社会を位置づける。

14:45～ 質疑応答

14:55～ 休憩

15:10～ 小川全夫（たけお）（学術会議連携会員、山口県立大学）

「少子高齢化をめぐる東アジアの中の日本」

地域人口の少子高齢化の波及が、日本の過疎地域から都心地域、そして郊外地域と広がり、全国的な広がりを持って進んでおり、それが東アジア全体に同じようなパターンで広がっていることを報告する。

15:45～ 袖井孝子（学術会議連携会員、お茶の水女子大学）

「少子高齢社会における高齢者像の変化～家族への依存と自立への強制」

高齢者人口の増大に伴う政府出費の増加を背景に、高齢者にも自己選択、自己決定、自己責任が問われるようになった。中国における変化などと比較しながら日本の実態を論じる。

質疑応答および討論

16:15～

閉会挨拶

17:00